

令和6年度

印旛地区教育研究集会

生活科分科会 提案資料

研究主題

主体的・対話的に学び、気づきや考えを深めていく児童の育成

～学び・仲間・地域をつなぐ～



第2部会 富里市立富里小学校

下田 麻紀

白井 亮汰

## 1 研究主題

主体的・対話的に学び、気づきや考えを深めていく児童の育成  
～学び・仲間・地域をつなぐ～

## 2 主題設定の理由

### (1) 学習指導要領から

生活科の教科目標は、次のとおりである。

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し、生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおりに育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴のよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。

(知識及び技能の基礎)

- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。

(思考力・判断力・表現力等の基礎)

- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

(学びに向かう力・人間性等)

### (2) 学校教育目標から

一人一人に目を向け、協働した取り組みを通して「やさしく、かしこく、たくましい子」を育てる。

本校は学校教育目標として「やさしく かしこく たくましく」を掲げている。研究と一番大きく関係する「かしこく（知育）」という目標では、基礎基本の習得にとどまらず、自ら学び、考える児童を目指している。生活科の学習を通して、様々なことを体験したり、新たなものを発見したりすることで、学ぶことへの興味・関心を高めることができるであろう。そこから主体的な学習へと発展させて行くことを繰り返せば、気づきや考えを深めることができる考えた。

さらに、児童が自分の考えを広げたり深めたりするためには、対話的な学習を行うことによって、考えを共有することが必要になってくる。互いの意見を尊重し、共感し合って、考えを深めていくことができれば、「やさしく（徳育）」の目標を具現化することにもつながっていく。

そして、生徒指導の機能を生かした授業展開をしていくことで、より好ましい人間関係の

育成を図り、児童が「すこやかに（体育）」生活することができるであろうと考えた。

<1年生 学年目標>

『なかよし』

- ①がっこうとなかよし…学校っていろんな行事があつて楽しいね！
- ②ともだちとなかよし…友達とみんなで遊ぶと楽しいね！
- ③しぜんとなかよし…五感を使って季節を感じて味わおう！

<2年生 学年目標>

『にじいろ』…いろいろな色がひとつにまとまる

- ①友だちにやさしくできる子
- ②さいごまでがんばる子
- ③外で元気よくうんどうする子

(3) 児童の実態から

本校は、全校683名で、26学級（特別支援学級4）と市内ではもっとも規模の大きい学校である。学習面においては、体験的な学習や与えられた学習には熱心に取り組んでいるが、主体的に考えたり、自分の考えを発信したりするなどの思考力、判断力、表現力は乏しい傾向にある。自分の考えをもち、進んで行動できる児童もいるが、消極的な児童も多い。生活面においては、基本的な生活習慣が整っていない児童が多い。そのため、当たり前前のことが当たり前前できるようにするために、生徒指導の一環として「あたりまえ週間」に取り組んでいる。「名札を付ける、帽子を被る、上履きをきちんと履く」など、身だしなみを整えることを始めとして、ロッカーや靴箱、机の中の整理整頓など、規律を整えるために徹底して指導している。

(4) 主題について

低学年の児童の実態として、学習の対象そのものや、自分とどのように関わっているかに注意が向いていない児童が多い。友達の話聞いて自分の生活に生かそうとする気持ちはまだ十分に育っていない。

手立てとして、自分の見つけたことを伝えるという場を設定することで、対象そのものや、それらが自分とどのように関わっているか意識できるようにさせる。

そのために、本研究では、対象との関わりを意識させるような課題提示の工夫をすることや、気づきや考えを深めさせるための場面設定の工夫について検討する。

3 研究仮説

児童が自ら課題に対する思いや願いをもつことができれば、主体的・対話的な学びにつながり、気づきや考えを深めていくことができるだろう。

## (1) 仮説の手立て

### ①【児童が自らの課題に思いや願いをもつ】

活動内容や活動の目標を具体的に分かりやすく示すことで、見通しをもって学習に取り組み、課題に対する思いや願いをもつことができるだろう。

- ・教師が見本を作り、提示することで何をすればよいのかを把握し、活動に取り組むことができる。
- ・掲示物や板書で既習事項について想起させ、本時の学習に生かせるようにする。
- ・振り返りや観察・絵日記などのカードを1年間統一することで、書き方がわかる。
- ・まず全体指導で活動内容を理解させてから、個人での活動を行うことで何をやるかわかる。
- ・目的を明確化することで、「もっとこうしたい」「そのためには何が必要」などと思いや願いをもつことができる。

### ②【主体的・対話的な学びにつながり、気づきや考えを深めていく】

見つけたこと、発表したことを共有するための場の設定や教師の声かけの仕方を工夫する。

- ・ペアやグループで活動する際の場の設定を工夫することで、話し合いや作業がしやすくなり、進んで活動することができる。
- ・発問の仕方を工夫し、児童が考えを深めたり、新しく気付いたりできるようにする。

## 4 授業実践

### <1年生>

※本実践は、今年度の1年生の実践である。

(1) 単元名 つうがくろで みつけたよ

(2) 単元について

#### ① 単元観

本単元は学習指導要領の内容(1)「学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校生活は様々な人々や施設が関わっていることが分かり、楽しく安心して生活したり、安全な登下校をしたりしようとする。」と(3)「地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。」を受けて設定したものである。

本単元では、学校生活の中で様々な人々や施設と関わり、ルールの大切さを少しず

つ理解してきている中で、自分が通っている通学路に目を向け、そこで見つけたものや支えてくれている人々などを中心とした生活から、友達や地域の人々、身の回りの環境などとの関わりを通して、自分たちの地域へと生活の場を広げていくわけだが、その第一歩として、通学路に目を向けさせる。いつも歩いている通学路で見つけたものを教え合う中で自分たちを守ってくれているものや人に気付かせ、それらに親しみや愛着をもたせ、適切な行動ができるようにしたい。他にも、自分たちを守ってくれる施設や人々などに込められた思いや願いを考えさせるとともに、安全や公共の場でのルールなど実際に生活に結びつけていくことができるようにしたい。また、安全な登下校をできるようにするだけでなく、自分の身を守るためには何が必要なのか考えさせたい。

## ② 児童の実態

本学級の児童は、入学当初から明るく元気で、自分から友達に声をかけられる児童が多い。その反面、自己主張が苦手な児童や、朝、保護者と離れることが寂しくて、涙を流す児童もおり、不安定な様子もあった。にぎやかな雰囲気のできか集中して話を聞いたり、じっとしたりすることが苦手な児童もいる。また、ルールやきまりを守ることができない児童がおり、トラブルになることが多い。登校の際は、保護者や兄弟と来ている児童が多く、下校時も迎えが来る児童が多い。そのため、登下校中に周りの様子を気にして登校している児童は少ない。学校に行く、家に帰るといった目的の方が強く、通学路の様子などに児童の興味関心があまりないことから、意図的に目を向けさせ、安全を守るための施設や人々などいろいろな気づきの経験をさせることは、児童にとって有意義な活動になると言える。また、自分がどんな1年生になりたいかを考えさせた。全ての活動において、どんなことをすれば、自分の目指す1年生になれるのかというところに立ち返り、主体的に活動するようにさせたい。

## ③ 指導観

児童にとって通学路は、学校に行くための道であって、特別意識することなく歩いているため、見つけたものを聞かれても回答数が少なく、「なにもない」と答える児童もいた。それは、普段当たり前目にしているものであるから、見つけたものに入らなかったのだろう。しかし、学校探検では、様々な施設やものを見つけたり、学校を支えてくれる人々に関わったりする活動を行い、今まで気付かなかったことや発見することのうれしさを体験している。目的をもたせて通学路を歩かせれば、今までは気に留めなかったものにも気づき、楽しさを感じることができるだろう。また友達と意見を伝え合う活動を行えば、自分では気付かなかったことも知ることができる。また、自分が見つけたことを自分なりに絵や文字で表現することで達成感を味わうこともできる。

まず、通学路に目を向けさせるためにポイントとして、担任からの投げかけで自ら進んで興味をもたせたい。例えば、道に咲いている花や発見した不思議なものなどを

紹介することで、児童も競って見つけたものを報告し合うことが考えられる。そこでみんなで共通理解しながら、安全面についても目を向けるよう取り上げ、児童が主体となって進めていけるようにしたい。安全を守っている施設や人々に目が向かない場合は、こちらでも写真など用紙はしておくが、児童が自ら気付けるように言葉がけをしていく。

次に見つけた物を確かめるためにみんなで通学路の一部を歩き、公園まで行く活動を取り入れていく。児童それぞれの通学路での安全や発見も大切だが、他の通学路でも同様に安全が守られていたり、似ているところがあったりすることをわかった上で、みんなで確かめる体験活動を行うことが児童の理解を深めると考えられる。また、公園に行くことは、通学路を始めとした「地域」へ目を向けさせることになり、活動の場を広げることにつながる。また、児童の興味関心が高まる活動でもある。自分たちの住んでいる地域に楽しめる場所があり、そこで遊ぶことで公園の使い方やマナーを学ぶだけでなく、地域への愛着にもつながると考えられる。

### (3) 単元の目標

地域で見つけたものを伝え合ったり、確かめたりする活動を通して、地域の人々や場所に親しみをもつとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々の役割に気づき、安全な登下校ができるようにする。

### (4) 指導計画（9時間扱い）

時配	学習内容と学習活動	評価規準（評価の観点）【評価方法】
1	・学校に来る道で見つけた物を発表し合おう。	・通学路の様子に関心を持ち、その様子を進んで友達や先生に話そうとしている。  (主体的に学習に取り組む態度) <b>【発言】</b>
2	・見つけたものをカードにかこう。	・通学路の様子を調べたり観察したりして、安全な登下校の仕方を考えている。  (思考力・判断力・表現力) <b>【ワークシート】</b>
3	・見つけたものを紹介し合おう。	・通学路では、様々な人に守られていることに気付いている。  (知識・技能) <b>【ワークシート・発言】</b>


4 (本時)	・身近な公園まで歩き、通学路を安全に歩く練習をしよう。	・公園までの安全な歩き方について理解している。 (知識・技能) 【ワークシート・発言】
5 ・ 6	・公園の使い方やルールを守って楽しく遊ぼう。	・通学路を安全に歩くことができる。 (知識・技能) 【行動】 ・ルールやマナーを考えて、身近な公園で遊んでいる。 (思考力・判断力・表現力) 【行動・発言】
7	・公園まで歩いた時に気を付けたことを振り返り、カードに書こう。	・公園までの安全な歩き方について理解している。 (知識・技能) 【ワークシート】
8 ・ 9	・学習したことを活かして違う公園に行こう。	・ルールやマナーを守って身近な公園で遊んでいる。 (知識・技能) 【行動・発言】

(5) 本時の指導 (4/9)


① 目標

- ・公園までの安全な歩き方について考えている。(知識及び技能の基礎)

② 展開

時配	学習内容と学習活動	・指導と支援 ○評価 ☆仮説との関連
5	<p>【見いだす】</p> <p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>○みんなが通学路で見つけたものや人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お店・花・ねこ・公園・信号・家・看板</li> <li>・人みたいな木</li> <li>・道路を渡らせてくれるおじさん</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がカードにかいていた物を印刷して黒板に貼る。</li> </ul>



2	<p>2 みんなで見に行ける場所はどこか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園なら広いからみんなで行けるね。</li> <li>・私の家の近くに公園があるよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の外に出かけてもよいことを伝え、どこへ行くか考えさせる。</li> <li>・みんなで歩いて行ける場所にできるように声をかける。</li> </ul>
<p>つうがくろでみつけた こうえんにいこう。</p>		
5	<p>3 公園は何をしたらいいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊ぶところだよ。</li> <li>・遊具があるし、おにごっこもできる。</li> <li>・ベンチで休憩しているおじいちゃんがいた。</li> <li>・桜が咲いていた時にお花見したよ。</li> <li>・保育園の子がお散歩に来ていたよ。</li> </ul>	<p>☆活動の目標を具体的に示したことで、見通しをもって学習に取り組むことができた。</p> <p style="text-align: right;">(仮説・手立て1)</p>
6	<p>4 公園で遊ぶときに気をつけることを考えさせる。</p>	
<p>【自分で考える】【広げ深る】</p>		
10	<p>5 公園に行くときに気をつけることをグループで考える。(4人×8グループ)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ1枚メモ用紙を渡し、グループで出した意見を書ける範囲で書かせる。</li> <li>・登下校の時に気を付けていることを参考にするよう声を掛ける。</li> </ul> <p>○通学路の安全な歩き方について考えている。</p> <p style="text-align: right;">(知識・技能)</p>
10	<p>6 グループで考えたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前を向いて端をまっすぐ歩く。</li> <li>・人の家の前を歩くから、静かにする。</li> <li>・道路を渡る時は、車が来ていないか確認して、手を挙げて渡る。</li> <li>・落ちていたものを触らない。</li> <li>・周りをよく見て歩く。</li> </ul>	<p>【発言・ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童から出たことを板書し、「公園に行くときの約束」とする。</li> <li>・必要なことは、教師が付け足す。</li> </ul>



<p>5</p> <p>7</p> <p>2</p>	<p>【まとめあげる】</p> <p>7 学習したことを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習は楽しかった。</li> <li>・友達に思ったことを伝えられた。</li> <li>・次の学習でやりたいことが見つかった。</li> <li>・学習して思ったこと、気付いたこと。</li> </ul> <p>8 振り返りを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に気をつけて公園に行く。</li> <li>・友達が見つけたものを見てみたい。</li> <li>・みんなで考えたルールを守って、楽しく遊びたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りカードに◎・○・△を記入し、本時の学習を振り返る。</li> <li>・みんなで考えた約束を元に、どのような公園探検にしたいかを考えさせる。</li> <li>・思ったことが書けている児童を指名し、発表させる。</li> </ul> <p>☆教師の声かけによって、次回の学習につながるような発言を引き出し、児童の気づきや考えが深まった。</p> <p>(仮説・手立て2)</p>
----------------------------	---	---

③ 板書計画

つうがくろで みつけたよ → こうえんにいこう！  
(まもってくれる)

前時で児童が見つけた  
まもってくれる  
ものやひとのイラスト

こうえん…ゆうぐであそぶ・きゅうけい  
かけっこ・おはなみ・さんぼ  
むしをつかまえる  
きゅうけい・ゆっくり

ふりかえりの  
見本

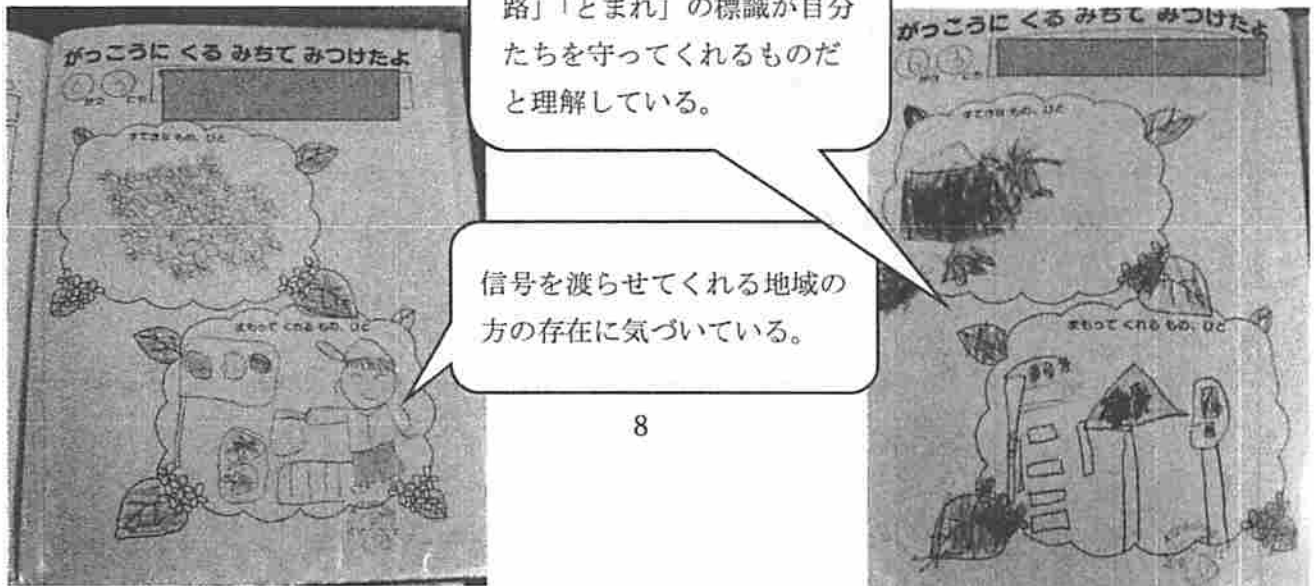
(おきにいり)

- ・すてきないえ
- ・ひとみたいなき
- ・ねこ・おはなやさん
- ・こうえん・はな

こうえんにいくとき

- ・しんごうをまもる。
- ・ものにさわらない。
- ・くるまにきをつける。
- ・しずかにあるく。
- ・ひろがらない。
- ・じかんをまもる。
- ・せんせいの  
はなしをきく。

(6) 児童のワークシート  
<みつけたよカード>



<振り返りカード>

おはるとなかよし ふりかえりがあど ねん

か じ こ ろ	きょうの がくしゅうが たのしかった	ともだちに おもったこと つとえられた	つぎのめくしゅうで やりたいことが みつかった	きもんにおもったこと あたらしくきづいたこと
3	☺	☺	☺	たのしい、た
6	☺	☺	☺	たのしい、た
12	☺	☺	☺	たのしい、た
20	☺	☺	☺	ころばないよ
6 27	☺	☺	☺	ころばないよ ころえけたかん がたのしいかつ なつになつ、はみま そしがしたい

「ころばないようにきをつける。」  
→安全に気を付けて歩いたり、遊んだりしようと思えることができている。

「なつになったら～したい。」  
→次の季節を楽しみにしている。

あつらひのたね

ろくこうえん 6.13

- ①同じ型を使う。
- ②見本を提示する。
- ③内容を指定する。

気をつけたことや  
楽しかったことを  
書きましょう。

担任の作った見本を  
全て写していた児童

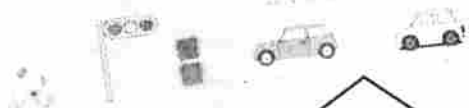
自分の言葉で振り返ることができた

(7) 掲示物

<子どもたちが考えた約束>

<こうえんに いくときの やくそく>

- ①せんせいの はなしを よくきく。
- ②どうろの はじを しずかにあるく。
- ③しんごうを まもる。
- ④くるまに きをつける。
- ⑤ものに さわらない。



<こうえんでの やくそく>

- ①けがを しないように きをつける。
- ②ゆうぐを ただしく つかう。
- ③じゆんばんを まもる。
- ④ともだちと なかよくあそぶ。
- ⑤ものを こわさない。
- ⑥ごみは もちかえる。



教室に掲示し、公園探検だけでなく、  
登下校の指導をする際にも使用している。

<学区で見つけた安全を守るもの>



学区地図を使って自分の通学  
路や公園探検のルートを確認し  
た。教室には、見つけたものの  
写真を貼って掲示している。

<学習の振り返り方>

きょうのがくしゅうのふりかえり

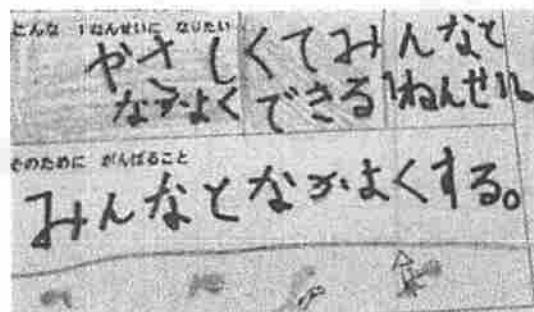
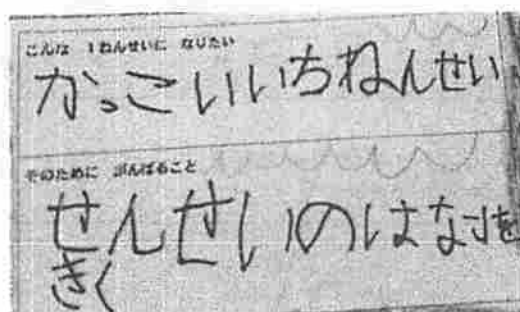


たのしかった      つたえられた      やりたいこと

(かんそう)  
・きづいたこと・おもったこと

生活科だけでなく、授業の最後に  
顔マークを書いたり、感想を書いたり  
して振り返りを行っている。

<どんな1年生になりたいか>



## <2年生>

※本実践は、令和5年度2年生の実践である。

(1) 単元名 つくる楽しさはっけん

(2) 単元について

### ①単元観

本単元は、小学校学習指導要領の以下の内容(6)「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくりことができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを造り出そうとする。」と(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。」を受けて設定したものである。

「おもちゃを作ってみよう」の冒頭で、自分たちが作って遊んだことのあるおもちゃを思い出させる。出来合いのもので遊ぶことの多い今の子どもたちであっても、幼稚園、保育所や今までの生活科の学習歴の中から思い起こせるように投げかけていく。そのような体験を思い出しながら動くおもちゃや音の出るおもちゃを作ってみることが活動の入り口となる。そこから、自分たちで材料を考えながらおもちゃ作りに取り組んでいく。作り始めると上手いかなかったり、思いがけず期待以上の楽しさが生じたりと色々な体験をすることになることが予想される。それらの体験を通しながら、作ったもので遊ぶ中で、友達との意見交流も活発になるようにしていきたい。その後「楽しさのひみつはっけん！」では、おもちゃでの遊び方をもっと楽しむには、どうしたらよいのかを考え、おもちゃの改造や遊び場の工夫が始まっていく。図書資料で調べたり、友だちのよいところを取り入れたり、身近な大人に教えてもらったりしながら、おもちゃを作って遊ぶ。その楽しさや工夫した点などを言葉にししながら、確かな気づきや自分の考えをもてるようにさせたい。

### ②児童の実態

本学級の児童は、前単元の「わたしの町はっけん」の町を探検する活動を通して、相手のことを想像して、伝えたいことや伝え方を選び、伝え合うよさや楽しさに気づき、交流してきた。図画工作科では、遊ぶものを作るという活動に意欲的に取り組んだ。また、国語科では、仕掛け絵本を作る活動を通して、おもちゃ作りの説明の仕方を学んだ。しかし、児童同士の関わりが乏しいため学び合ったり、教え合ったりすることが難しい。そこで、本単元の「つくる楽しさはっけん」の活動を通して、学び合ったり教えあったりする力を高めていきたい。

### ③ 指導観

単元の導入で、単元のゴールは「1年生に向けておもちゃワールドを開催する」ということを伝え、単元の流れを明確にすることで児童に見通しをもたせていく。さらに、1年生がおもちゃで遊ぶことを通して、おもちゃの楽しさや面白さに気付いてもらうために様々な活動をしていくことを目的意識として位置付ける。7種類のおもちゃから興味のあるおもちゃを選び、設計図を作っていく。それをもとに、材料や道具を考え、自分で作ったおもちゃで遊んだり、友達と遊び合ったりする。友達同士での関わりによって、よりよいおもちゃにするために伝え合ったり、比べ合ったりする活動をすることで、気付きの質を高められるようにしていく。また、1年生に向けた発表であるため、わかりやすく伝えることが大切であり、国語科の学習と関連させ、相手意識をもった話し方や書き方の大切さ、必要性を意識させていきたい。

### (3) 単元の目標

身近にある物を使っておもちゃを考えたり、作ったりする活動を通して、面白さや不思議さを味わい、よりよい遊び方を作り出そうとする。

### (4) 指導計画 (11時間扱い)

時配	学習内容と学習活動	評価規準 (評価の観点) 【評価方法】
1	・「びよんびよんがえる」を作る。	・みんなと楽しく遊びたいという思いや願いをもって、おもちゃ作りに取り組もうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言・行動】
2 ・ 3	・「ゴムロケット」「びよんびよんがえる」「ジェットカー」「紙とんぼ」「おどるへび」「糸電話」「かんぶえ」の中から1つを選びおもちゃを作る。 ・教科書や動画 (教科書 QR コード読み取り)などを参考にして、おもちゃの作り方を考え、おもちゃ設計図を作成する。	・身近にあるものを使って、いろいろなおもちゃを作ることができることに気付いている。 (知識・技能) 【発言・作品】 ・見つけたり、試したりしておもちゃを作っている。 (思考力・判断力・表現力) 【発言・作品】

4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだおもちゃごとに分かれグループになる。</li> <li>・おもちゃ設計図をもとに、材料や道具を考えて用意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作ったおもちゃの動きと特徴や面白さに気付いている。</li> </ul> <p>(知識・技能)【ワークシート】</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で作ったおもちゃで遊んだり、友達と競争したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かめたり、見直したりしながら遊びに使う物で遊んでいる。</li> </ul> <p>(思考力・判断力・表現力) 【発言・行動】</p>
7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達同士で話したり、教え合ったりしながら、よりよいおもちゃを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよいおもちゃを目指して、友達のおもちゃと比べたり、試したりしながら、改良している。</li> </ul> <p>(思考力・判断力・表現力) 【発言・行動】</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生を『おもちゃワールド』に招待するための計画を立てる。</li> <li>・役割決めをする。</li> </ul>	
10 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見つけた課題をグループで話し合いながら修正する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予想したり、確かめたり、見直したりしながら遊びに使うものを作ったり、遊んだりしている。</li> </ul> <p>(思考力・判断力・表現力) 【行動・作品・ワークシート】</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃワールドを開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作り方や遊び方を教えながら、友達や異学年との関わり合いをもっておもちゃを作ったり、遊んだりしている。</li> </ul> <p>(主体的に取り組む態度) 【発言・行動】</p>

(5) 本時の指導 (10/11)




① 目標

- ・予想したり、確かめたり、見直したりしながら遊びに使うものを作ったり、遊んだりしている。
- (思考力・判断力・表現力等の基礎)

② 展開

時配	学習内容と学習活動	・指導と支援 ○評価 ☆仮説との関連
5	<p>【見いだす】</p> <p>1 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題を設定する。</p>	<p>・本番（おもちゃワールド）のように取り組ませることで課題を見つける。</p> <p>☆活動の目標を具体的に示したことで、見通しをもって学習に取り組むことができた。</p> <p>（仮説・手立て1）</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">おもちゃワールドをひらくためのじゅんぴをしよう。</div>		
10	<p>【自分で取り組む】【広げ深める】</p> <p>2 1年生役の2年生に向かって、おもちゃの遊び方の説明や教え方について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇遊びはこうやってやるんだよ。</li> <li>・こうするといいよ。</li> <li>・〇〇さん上手だね。</li> <li>・お兄さんが教えるから一緒にやろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日1年生をどのように迎え、どのような場の設定をすればよいかイメージをもたせる。</li> <li>・会場図や当日の流れを確認させる。</li> <li>・理解しやすいように可視化（会場を図で表す・流れを簡条書きで表すなど）して説明する。</li> <li>・安全に遊ぶためのルールを確認する。</li> <li>・1年生が遊び方を理解するためには、どのような言葉やしゃべり方で伝えればよいか考えられるようにする。</li> </ul>
7	<p>3 1年生役の2年生に実際におもちゃで遊ばせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく遊ぶことができるかを確認させる。</li> <li>・自分の工夫したことや発見したことを、友達に伝えるようにさせる。</li> </ul>



8	<p>4 見えた課題から本番ではどうすればよいかを話し合う。</p>	<p>☆教師が声かけをすることで、児童同士の理解が広がった。 (仮説・手立て2)</p> <p>・話し合いが進んでいないグループに、声をかける。</p>
10	<p>5 話し合いをもとに、おもちゃをよりよいものに作り上げる。</p> <p>〈紙とんぼグループ〉 とんだ距離でポイントを獲得できるゲーム</p> <p>「ポイントが書いてある紙だけおいてもどこまでが何ポイントか分からないから、紙テープで線をひくとわかりやすいね」</p> <p>〈おどるへびグループ〉 沢山へびが踊ったら勝ちゲーム</p> <p>「くわえる紙が一つだけだと、みんなができないから、何本も作ってさしかえないといけないね」</p> <p>〈ゴムロケットグループ〉 射的ゲーム</p> <p>「遊び方を知らない人に説明するってすごく難しいな。なかなか的までとばないから、うつ場所と的のきよりを近くしたらいいね」</p> <p>「何度か遊んでいるうちにこわれてしまったから、本番までにもっと丈夫に作らないと行けないね」</p>	   <p>○予想したり、確かめたり、見直したりしながら遊びに使うものを作ったり、遊んだりしている。 (思考力・判断力・表現力) 【行動・作品・ワークシート】</p>

5	<p>【まとめあげる】</p> <p>6 本時の振り返りをするとともに、次時の活動を確認する。</p>	<p>・活動を通して、友達のよかった考えや発言、工夫などを発表させる。</p>
---	---	---

③ 板書計画

**おもちゃワールドをひらくためのじゅんびをしよう。**

**当日の流れ**

- ・1年生を案内する(よびこみ係)
- ・ごうれいをかける(ごうれい係)
- ・あそび方・ゲームせつめい(せつめい係・お手本係)
- ・じっさいにあそぶ(おたすけ係)
- ・おわりの合図になったらごうれいをして(ごうれい係)

次のグループまでつれていく(よびこみ係)

**つたえ方ポイント**

**児童からでた意見の記入**

**やってみて気づいたこと**

**児童からでた意見の記入**

**当日の会場図**

(6) 児童のワークシート

ワークシート1

はっけん くふう おもちゃづくり

2年3組 第1組 ( )

おもちゃづくりをつくれます

① ひつようをいります

- × せんりつ
- × せんりつ
- せんりつ

② つかう道具

- ・ せんりつ
- ・ せんりつ

③ おもちゃづくりの図

遊んだ感想

材料  
道具  
設計図

友達からの  
アドバイス

ふりかえり

ワークシート2

はっけん くふう おもちゃづくり

2年3組 第1組 ( )

① おもちゃづくりをしてみよう

はっけん くふう おもちゃづくり

② お友達からのアドバイス

③ つぎは このおもちゃを もっと

楽しかったポイント → 楽しかった分だけ めっけてみよう。

ワークシート3

はっけん くふう おもちゃづくり

2年3組 名前( )

おどろへびグループ おもちゃワールド

【やくわり】

おどろへびグループ

【ゲームについて】

おどろへびグループ

【今日のふりかえり】

楽しかったポイント

ワークシート1と2をもとにした  
おもちゃレベルアップワークシート

材料  
道具  
設計図

④おもちゃの設計図

ワークシート4

はっけん くふう おもちゃづくり

2年3組 名前( )

1年生をおもちゃワールドに招待しよう

わたしは(おどろへびグループ)で1年生におもちゃを招待します。

【おもちゃのあそびかたのせつめいしをかき】

①1年生にやさしくおもちゃのあそびかたを説明しよう。

②おどろへびグループのあそびかたを1年生に説明しよう。

③おどろへびグループのあそびかたを1年生に説明しよう。

【今日のふりかえり】

楽しかったポイント

遊び方の説明  
(1年生にわかりやすく伝えるための工夫)

ふりかえり

ワークシート5

はっけん くふう おもちゃづくり

2年3組 名前( )

おどろへびグループ おもちゃワールド

【やくわり】

おどろへびグループ

【ゲームについて】

おどろへびグループ

【今日のふりかえり】

楽しかったポイント

おもちゃワールドでの役割

ふりかえり

## 5 成果 (○) と課題 (●)

児童が自ら課題に対する思いや願いをもつことができれば、主体的・対話的な学びにつながり、気づきや考えを深めていくことができるだろう。

### <1年生>

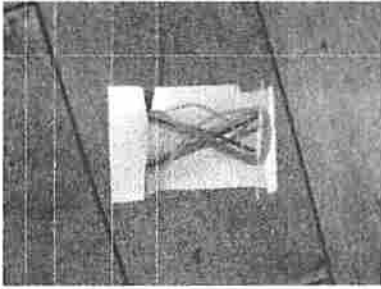
- 授業の初めに学習の流れを示したことで、児童が見通しをもって学習に取り組むことができた。
- 学校の廊下歩行の際のルールを想起させてから、道路の歩き方を考えさせたところ、自分たちで安全に歩く約束を考えることができた。
- 自分たちで約束を考えたことで、約束を守って道路を歩いたり、公園で遊んだりすることができた。
- 「どんな1年生になりたいか」を決め、そのためにどうすればいいかを考えながら活動することができた。
- グループでの話し合いで、グループに1枚メモ用紙を渡したところ、書ける児童が話し合ったことを記録することができた。
- 4人1グループとし、話し合いを行ったが、しっかり参加できない児童がいた。
- 毎時間振り返りカードに記入をしたが、最初から全ての項目に◎を書いている児童が多く、あまり変容が見られなかった。
- 公園たんけんに行った際は、安全に道路を歩くことができたが、普段の登下校では走り回るなど、危険な行動をする児童がいる。

### <2年生>

- 1年生に発表することを伝え、見通しをもたせたことで、児童が目的意識をもつことができ、意欲的に取り組むことができた。
- おもちゃ作りの際、ICT機器を活用したことで、一人一人の進度に合わせて（作り方が分からなくなったら確認する等）行うことができ、児童が意欲的に取り組むことができた。



- レベルアップおもちゃ作りを通して、試行錯誤を繰り返し、話し合いをしながら作り直す過程において、気づきの質が高まった。



「輪ゴムの本数を増やしたらよく飛ぶのを発見したけど  
沢山ありすぎてもダメなんだ」

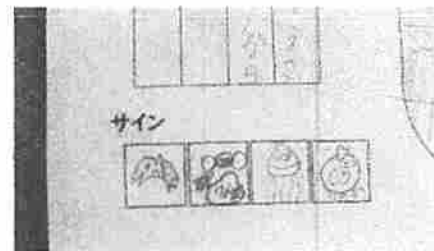


「発射するロケットは1個じゃなくてもいいのかも」  
「同じような作り方で作れるかな」



「おりがみと太いストローだと  
どっちのほうがヘビがおどる？」

○オリジナルサインを取り入れての意見交換により、積極的に振り返りをしたり、感想を述べたりする姿が見られた。また、生活科だけではなく、様々な教科でオリジナルサインを取り入れたことで、意欲の高まりがみられた。



○振り返りにおいて、文を書くだけではなく「楽しかったポイント」として楽しかった分だけ色を塗る箇所を作成したことで、文章に表すことが苦手な児童も振り返りを行うことができた。

- 児童の希望をもとにグループを作成したため、グループの人数に偏りが出てしまった。
- 毎単元、毎時間の振り返りを行う時間を十分に取ることが難しかった。振り返りの時間をしっかりと確保できるように、授業計画の見直しが必要である。
- 1年生だけではなく、他学年と交流をする機会を多く設けていくことで、より学びを深めていくことができる。